

# TOBU TIME

vol. 18

2017.2  
春号

Anniversary

10

# 地域とともに10年

「10周年記念号」

ご自由にお持ちください

TAKE FREE



# 東部病院のいま

多くの皆様のご支援をいただき、東部病院はこの春、開院 10 周年を迎えました。  
今回は、東部病院のこれまでの歩みを振り返る 10 周年記念特集です。

1日平均外来患者数  
約**1052.9**人

2016年12月実績

年間手術数  
**5,210**件

2011年度実績

協力医療機関  
登録医師数  
**249**人

2010年

TOBU  
HOSPITAL

年間救急患者数  
**26,492**人

2015年度実績

職員数  
**813**名

2007年

職員数

**1,385**名

2016年12月現在

病床数

**560**床

「二歩先の医療」を目指して、決意を新たに――

## 職員数

1,385名

医師217名／看護師642名／薬剤師42名／診療放射線技師43名／臨床検査技師46名／管理栄養士14名／理学療法士21名／作業療法士8名／言語聴覚士3名／臨床工学技士26名／ソーシャルワーカー7名／事務員109名、他

## 病床数

560床

うち、重症心身障害児(者)施設サルビア44床／精神科50床／救命救急センター病棟24床／ICU10床／HCU6床／NICU6床／GCU10床／SCU6床、等

## 診療部門

### ◎診療科

救急科／総合内科／消化器内科／小児肝臓消化器科／呼吸器内科／呼吸器外科／循環器内科／不整脈科／心臓血管外科／血管外科／糖尿病・内分泌内科／脳神経外科・脳血管内治療科／脳血管・神経内科／泌尿器科／腎臓内科／乳腺外科／産婦人科／小児科／精神科／整形外科／リハビリテーション科／眼科／耳鼻咽喉科／皮膚科／口腔外科／集中治療科／放射線治療科／放射線診断科／麻酔科／病理診断科

◎重症心身障害児(者)施設サルビア

## 診療サポート部門

薬剤部／臨床工学部／臨床検査部／放射線部／リハビリテーション部／栄養部

## TQM (総合的質管理)

医療安全管理室／感染管理対策室／褥瘡対策室／クリニカルパス管理室／栄養サポートチーム／呼吸サポートチーム／緩和ケアチーム／糖尿病ケアチーム／認知症ケアチーム

## 診療施設部門

救命救急センター／横浜市重症外傷センター／大動脈治療センター／低侵襲前立腺治療センター／弁膜症治療センター／周術期支援センター

## 主な指定等

災害医療拠点病院／救命救急センター／地域医療支援病院／神奈川県周産期母子医療センター／横浜市小児救急拠点病院／神奈川県精神科救急基幹病院／臨床研修指定病院／神奈川DMAT指定病院／神奈川DMAT-L指定病院／地域がん診療連携拠点病院

年間手術数

6,790件

2015年度実績

協力医療機関登録医師数

727人

2016年1月現在

診療科数

31科

2016年12月現在

病床利用率

92.2%

2016年12月実績

## 東部ヒストリー

2002年3月4日

- 1 「よこはま21世紀プラン」において東部地域中核病院の整備に伴い神奈川県済生会が選定

2003

2003年7月1日

東部方面重症心身障害児施設の整備に関する基本協定書を締結

2003年9月24日

病院開設認可

2002

2006

2004

2004年12月27日

工事着工



2006年12月20日

建物竣工、引渡式



### 1 よこはま21世紀プラン

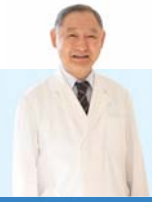
横浜市の総合計画「よこはま21世紀プラン」において、東部地域に急性期医療を支える中核病院を整備することが求められ、東部病院の構想がスタートしました。2002年には横浜市と神奈川県済生会との間で協定が結ばれ、両者の強力なパートナーシップのもとで整備が進められました。東部病院は済生会横浜市南部病院などに次ぐ、市内で5番目の地域中核病院になります。

### 2 重症心身障害児(者)施設サルビア

サルビアは高度な医療を備えた総合病院の中にある特徴を生かして、重症心身障害児(者)に対し、医療や医学的管理に基づいた支援を行うことを目標に設立されました。施設内には横浜市立北綱島特別支援学校の分教室が併設され、学齢期の入所者は個別支援教育を受けることができます。

### 3 救命救急センター

救命救急センターは、24時間365日いつでも対応できる救急医療体制を整え、地域の最重症の救急患者さんへの対応を担っています。横浜市内では9病院が指定され、鶴見区では東部病院が唯一の救命救急センターで



2007年3月30日

「済生会横浜市東部病院」開院  
現顧問 前院長 川城丈夫 就任



2007年4月1日

2 「重症心身障害児(者)施設  
サルビア」開所



2007年9月1日

3 救命救急センターの指定



2007年7月14日

東部病院・サルビア落成式  
瑤子女王殿下御視察

2009年4月1日

DPC対象病院となる

2011

2009

2008

2007

2011年3月11日

東日本大震災への医療擁護班派遣



2011年11月

院内助産Rainbow開設



2008年6月1日

神奈川県周産期母子医療センターの  
認定

2008年9月24日

地域医療支援病院の指定を受ける

2011年3月23日

4 神奈川DMAT指定病院の指定

2011年4月

5 高精度のロボット型放射線治療装置  
「サイバーナイフ」導入



2011年4月1日

三角隆彦院長就任  
(p.10～p.11 Leaders掲載)



#### 4 災害医療拠点病院

東部病院には外傷外科の専門医が多く集まっているため、外科の手術が自前で出来ることが当院の救命救急センターの大きな特徴となっています。

#### 5 最先端医療

東部病院は、「歩先の医療」を目指して新しい技術を積極的に導入しています。その一端として2011年4月にはロボット型放射線治療装置「サイバーナイフ」を、2011年2月には横浜市内で初めて手術支援ロボット「ダビンチ」を導入し、優れた治療成果を上げるとともに、患者さんの身体的負担の軽減や回復の促進、さらに入院日数の短縮にも寄与しています。

東部病院は、「歩先の医療」を目指して新しい技術を積極的に導入しています。その一端として2011年4月にはロボット型放射線治療装置「サイバーナイフ」を、2011年2月には横浜市内で初めて手術支援ロボット「ダビンチ」を導入し、優れた治療成果を上げるとともに、患者さんの身体的負担の軽減や回復の促進、さらに入院日数の短縮にも寄与しています。

2012年1月

6 ハイブリッド手術室完成



2012年3月2日

日本医療機能評価機構認定 (ver.6.0)



2012年11月

横浜市内で初めて手術支援ロボット「ダビンチ」を導入



2013

2012

2013年2月6日

神奈川DMAT-L指定病院に



2013年4月1日

7 神奈川県がん診療連携指定病院に

2013年12月

TAVI施設認定

2013年8月1日

卒後臨床研修評価機構JCEP認定

2013年9月3日

鶴見区内6病院の救急搬送連携「鶴見区ルール」を開始

## 6 ハイブリッド手術室

ハイブリッド手術室は手術台と血管造影装置を組み合わせた手術室です。従来は手術室と心臓カテーテル室、それぞれ別の場所に設置されていた機器を組み合わせるにより、TAVI(タビ)などの先進的な治療から開腹・開胸の手術まで様々な術式に対応し、手術を迅速かつ安全に実施することができ、災害時にも治療が継続できるよう無停電化を実現しているのも特徴です。

## 7 がん診療連携拠点病院

東部病院は2014年8月6日に「がん診療連携拠点病院」に指定されました。全国どこでも質の高いがん医療を提供することを目指して厚生労働省が指定した病院で、がんに関する診療の体制や設備、情報提供、他の医療機関との連携などについて国が定めた基準を満たしていることが条件です。最新鋭の技術・設備を備えた、各種がん治療において全国トップレベルの実績を上げています。

## 8 TAVI

心臓弁膜症に対する新しい治療法「TAVI(タビ)」。カテーテルを用いた体に負担の少ない低侵襲の手術法で、これまで手術が難しかった高齢の方や合併症のある患者さんも治療が可能

2016年8月1日

周術期支援センター開設



2014年10月1日

横浜市重症外傷センターの指定



2014年2月

8 経カテーテル大動脈弁置換術「TAVI」を導入



2016年10月

神奈川県内で先駆けて「ダビンチXi」導入

2014年8月6日

地域がん診療連携拠点病院の指定

2014年1月1日

横浜市認知症疾患医療センターの指定

2017

2015

2016

2014

2017年3月30日

開院  
10周年

SAISEIKAI YOKOHAMASHI  
TOBU HOSPITAL

2015年4月

診療特定看護師の配置

2015年6月9日

9 秋篠宮同妃両殿下御視察



2016年4月

熊本震災へDMATで出動



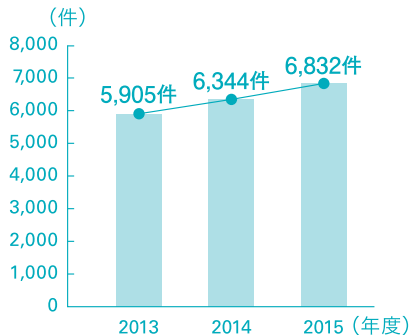
9 秋篠宮同妃両殿下ご視察  
2015年6月9日、秋篠宮同妃両殿下が東部病院をご訪問になり、小児病棟、重症心身障害児(者)施設サルビア、手術支援ロボット「ダビンチ」、救命救急病棟の4施設をご視察になりました。サルビアでは入所者と交流の時を持たれ、手術室ではダビンチの操作を体験されるなど、医療と福祉への深いご理解と、関心にスタッフ皆が大きな感動を受けた日でした。

❶ 済生会の社会福祉活動

済生会は正式には「社会福祉法人 恩賜財団済生会」と称し、明治44年(1911年)に明治天皇の命によって創立された日本最大の社会福祉法人です。生活困窮者に対し医療を中心とした支援を行う」という創立の理念を今に受け継ぎ、生活保護受給者などを対象に医療費を免除または減額する「無料低額診療事業」や、生活に困っている方に訪問診療や健康診断、予防接種等を無料で行う「なでしこプラン」等を実施しています。東部病院も済生会の一員として病院を母体に医療・保健・福祉が連携した総合的なサービスを提供を目指しています。

# 6つのキーワード

【東部病院の年間手術件数】



## 1 症例数・年間手術数の増加

副院長・腎泌尿器センター長・泌尿器科部長  
中島洋介



### 最新技術の導入に注力

泌尿器科では患者さんの身体の負担をできるだけ軽減し、その上でさらに効果的な治療を行うことを目指し、開院準備段階から一貫して国内外の最新技術の情報収集に力を注いできました。前立腺癌に対する密封小線源療法、ダビンチ、サイバーナイフといった最新放射線治療やロボット手術を他院に先駆けて導入したのはその成果の一端です。

### ロボット手術の推進を

ロボット技術については、可能であれば東部病院としてもその開発に携わり、産学共同研究を進める意気込みで取り組んでいく所存です。また、昨年春に前立腺がんに対する定位放射線治療が保険適用となりました。放射線治療科と共にサイバーナイフを用いたこの治療の導入規定を作成し、年内には全国に先駆けて確立したいと思います。定位放射線治療の導入により、前立腺がんのサイバーナイフ治療が現在の38回から、たった5回と大幅に減らせるため、患者さんにとって大きな福音となると考えます。

## 2 職員数の安定的な確保

事務部部长 清水 雅



### 人を認める風土づくり

開院当初は病院としての実績もなく、知名度も低いというハンディの中で職員を確保しなければなりません。特に看護師の確保は最大の懸案でしたが、「急性期看護のプロフェッショナルを育成する」といった明確なビジョンがあること、教育制度の充実、頑張った人を認める風土づくりに努めてきたことが安定的な職員確保につながっています。

### やりがいのある病院を

今後もチーム医療の推進により負担軽減を図り、離職率の低下につなげていきたいと思えます。また、認定資格取得に取り組む職員への支援と、認定資格を活かして働く職員の評価を進め、やりがいのある病院を目指します。成長する自分が実感できる病院、ここで働いてよかったと思える病院をつくっていきます。

【職員数】

年度	職員数
2013年度	1,226人
2014年度	1,222人
2015年度	1,328人

## 3 平均在院日数の短縮

消化器センター長／外科部長  
江川智久



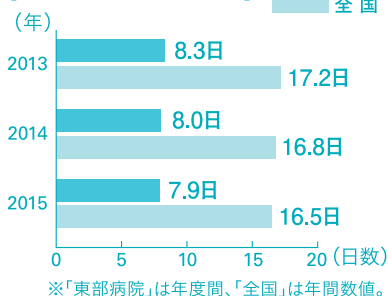
### 安全・確実な医療を提供

平均在院日数が短い＝病院の治療能力が高い——といわれています。入院から退院までのプロセス中、いかに正確な診断と適切な治療・判断が行われたかを示すのに、在院日数は指標の一つになるのです。もし、不適切な治療(過剰な治療や不十分な治療)が行われたり、合併症が発生すれば入院期間が長くなります。結果として、患者さんの身体を含め、経済的にも負担を掛けてしまいます。当院では安全・確実、そしてよりスムーズな早期退院、社会復帰支援に取り組んでいます。

### 地域がん診療連携拠点病院として

東部病院ではがん拠点病院として、がんの3大療法「外科療法」「放射線療法」「化学療法」のどの治療手段においても最新鋭の技術・設備を導入しております。高度急性期病院としての使命を果たし、がん拠点病院として地域に根付くため、地域完結型の体制を近隣医療機関のみならずシステム構築していきます。

【平均在院日数(一般病床)】





# 東部医療の10年を知る

## 6

### 紹介率・逆紹介率の増加

医療連携センター長／腎臓内科部長  
宮城盛淳



#### 顔の見える医療連携

当院では、近隣の医師との勉強会、他病院との連携による救急搬送システムの構築、鶴見区医師会在宅部門の相談窓口「さわやか相談窓口」の院内設置などを通じて、顔の見える医療連携を行ってきました。それと同時に、患者さんを通して行う個別の相談・連携の積み重ねが紹介率・逆紹介率の増加につながったと感じています。

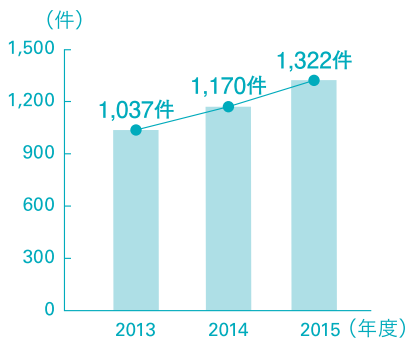
#### 包括的な協力体制を

高齢化に伴い慢性疾患を持つ患者さんや要介護の患者さんの増加が見込まれています。こうした方々を地域全体で支えていく「地域包括ケア」の中で、当院のような急性期病院の果たせる役割は限定的です。患者さんの生活の質を維持できる在宅への移行には、病院、診療所、ケアマネージャー、訪問看護師、そしてご家族の包括的な協力体制が必要です。

【東部病院における紹介数・逆紹介数】

	2013年	2014年	2015年
紹介数	15,177	16,497	17,174
逆紹介数	26,094	26,714	27,090

【東部病院における分娩件数】



## 4

### 国際協力

院長 三角隆彦



#### ベトナム、中国と交流

済生会では国際協力を進めており、ベトナムのダナンがんセンターと「ヘルスケア連携事業」に関する覚書を締結。同院の医師や看護師、医療技術者等の日本での研修を定期的に受け入れるほか、済生会病院の医師等をダナンに派遣しています。また中国・上海市が運営する上海健康医学院と医学・福祉交流を進めています。こうした背景には、2011年に法人創立100周年を迎え、国内では生活困難者の支援などを手掛けてきた歴史はありますが、それと比べると海外にあまり目を向けてこなかったという反省があります。

#### 国際協力事業の推進を

これまで済生会は災害被災者や戦争による難民の支援等のほか、各病院独自に海外支援を行ってきました。当院も先述のダナンがんセンターの医師や検査技師の研修受け入れ等を行い、海外からの病院見学者も多数お迎えしております。今後も国際連携推進委員会の委員長として、また東部病院院長として国際協力事業を積極的に推進していく方針です。

## 5

### 分娩件数の増加

レディースセンター長 小西康博



#### 救急医療と温かな環境

開院以来、信頼できる新生児科と連絡を密にとりながら高度な周産期三次救急医療を行ってきました。その一方で、院内助産などを含めた温かい出産環境にも配慮してきました。すなわち、裏に潜む医療上の急激な変化に目を光らせながら、スタッフ一同、皆様の心温まる新しい生命の誕生をサポートして参りました。

#### 社会環境にも配慮を

昨年は近年初めて、日本の年間出生数が100万人を割り込みました。また、産科に関わる医師数の減少も再び危惧されております。安全な分娩を維持し、次世代につなげていくためにも、医師、助産師を含めたスタッフ体制のさらなる充実を図っていく必要があります。安心して出産できる医療環境のみならず、産後のメンタルケアなどを含めた社会環境のサポートに配慮していくことも重要であると考えています。

# LEADERS

リーダーたちが語る東部病院の医療

東部病院を牽引するリーダーたちの姿・人柄・取り組みに迫ります。

大切なのは病院がここにあり続け  
その役割を確実に果たし続けること



vol.10

院長  
三角隆彦



## 医師は間違いなく一生の仕事 その確信を持って歩んだ道

1970年代、医療の需要が高まる中で医学部の新設が相次いだ。当時、高校生だった三角の周りにも医師を志す仲間たちが多かった。

「みんなが医者になりたいと憧れていた時代です。僕も将来どういう道に進もうかと考えた時、医師は間違いなく一生の仕事、一人の人間としてやり遂げるに値する仕事だと思い、その確信が医師への道を後押ししました」。

こうして進学した医学部では専門として外科、その中でも心臓外科に興味を持つ。当時の外科において心臓の分野はまだ遅れており、そこに発展の余地を感じたことと、心臓の手術がとても興味深く感じられたことが理由だった。

大学卒業後、母校の外科に入局した三角は日本各地の病院で心臓外科医としての経験を積んだ後、2007年の東部病院の開院時に請われて心臓血管外科の立ち上げに関わり、副院長兼心臓血管外科部長に就任する。そして2011年4月、初代院長の退任に伴って院長職を引き継ぎ、現在に至る。

## 東部病院開院10周年 その節目を迎えて

院長就任6年目の今年は、東部病院の開院10年目に当たる。

「東部病院は済生会の病院であり、地域に根ざした中核病院として高度急性期医療を実践するという明確な役割を持って作られた病院です。その役割を果たすべく着々と進めてきたのがこの10年間だったと思います」。

三角が院長に就任した段階で当初目指していたコンセプトは出来上がりつつあった。それをさらに進め、よりしっかりとしたものにするのが自分の使命と思う一方で、病院を維持していくことの大切さ、難しさも強く感じてきた。

「質の高い医療を提供し続けるには、ここで働く人たちにとって魅力ある病院であることも大事。僕が思っているのは、一つには、オン、オフがはっきりしていて、オンの時にはしっかり頑張れるような病院にしたいということ。もう一つには、例えば高度先進医療に力を入れるといったように他の病院ではできないからここで働きたいと思ってもらえる病院にすることです」。

## 世代交代が行われる中で 志が継承されるかが鍵

常に「一歩先の医療を目指す」という病院の理念に沿って、三角は様々な取り組みを行ってきた。2012年には横浜市で初となる手術支援ロボット「ダビンチ」を導入。2014年には市の要請に応え、重症外傷センターを開設。チーム医療の実現にも注力し、2012年からは診療科の垣根を越え



たハートチームを結成。心臓弁膜症の最新治療法「TAVI」を導入するなど、枚挙にいとまがない。三角の専門分野である心臓血管外科をとっても、2007年のスタート時に年間80症例ほどだった手術実績は250症例を超えるまでになった。

「これまでは同じ志を持った立ち上げメンバーと一緒にやってこられたのが成功の要因だった」と語る三角。

「次の世代ももちろん一生懸命育ててきたつもりですが、開院から10年経ち、それぞれの部門で世代交代が行われる中で、職員たちがこれまでの志を本心に継承し、さらにそれを発展させてくれるかどうかは今後のキーポイントだと思います」。

## 地域全体の医療の向上に これからも貢献し続けたい

これからの東部病院を思う時、三角は地域全体を常に視野に入れていく。「地域全体の医療をよくしていくためには、東部だけが発展しても意味がありません。この地域には慢性期医療を

担う病院や在宅医療に携わる施設、患者さんの日常的な診療を担うクリニックなど様々な医療機関が存在します。それぞれがそれぞれの役割をしっかりと果たしてこそ、全体の水準が上がっていく。当院は他の医療機関と密に連携しながら、地域全体の医療の向上に貢献していきたいと思っています」。

そのためには地域住民の協力も欠かせない。

「患者さんに支持されてこそ病院は発展していきます。ですから患者さんを始め、これまで東部病院を支えてくださった地域の方々に心から感謝をお伝えしたいと思います。同時に、今後も当院が高度急性期という特に重症度の高い患者さんを受け入れる病院としての役割を果たしていけるように、皆様にご協力をお願いいたします」。

## 三角隆彦

Takahiko Misumi

済生会横浜市東部病院  
院長

1981年慶應義塾大学医学部卒業。同大学病院外科研修医を経て、医学部外科学教室心臓血管外科研究室入局。済生会神奈川県病院外科、足利赤十字病院心臓血管外科、平塚市民病院心臓血管外科等に勤務。2007年東部病院開院に伴い副院長・心臓血管外科部長に就任。2011年より現職。慶應義塾大学医学部客員教授。



栄養相談のご案内

まずは日々の食生活から  
見直しませんか？

東部病院の管理栄養士が食事・栄養相談を承ります。

ご本人・ご家族の生活習慣や食の好み等を含めた総合的な栄養評価のもとで、おひとりずつの状況に合わせ、具体的に実行可能な範囲でサポートとアドバイスをいたします。

対象疾患

糖尿病（1型・2型）、脂質異常症、貧血、高血圧、肥満、腎臓病（透析療法含む）、心疾患、肝臓病、低栄養（食事摂取不良、癌化学療法中の食欲低下など）、周術期における食生活相談 など

相談内容

血糖コントロール、食事バランス、外食・間食・アルコールの摂り方、塩分制限の工夫などについて説明・アドバイスいたします。また、糖尿病や高血圧に関する各種パンフレットを適宜お渡しいたします。

相談を希望される方

かかりつけの医療機関を介してご予約を承ります。まずは主治医の先生にご相談ください。



PICK UP

腎臓内科通院中の患者さんを対象に腎臓病教室を行なっています

医師、看護師、栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカーによる腎臓病教室を行っています。腎臓の働きから腎臓病の治療、腎臓病患者さんに関連した医療制度に至るまで、分かりやすく説明いたします。

- 対象者：腎臓内科通院中の患者さん
- 開催日：奇数月の第1～第3水曜日
- 時間：14:00～16:00
- 場所：当院4階 研究室3
- お持ちもの：診察券・筆記用具
- 費用：資料代（税抜500円）+集団食事栄養指導料

※詳細につきましては、腎臓内科外来までおたずねください。  
電話：045-576-3000 内線6221（平日14:00～17:00）



周術期支援センター完成

1階入院受付となりに「周術期支援センター」専用スペースが完成しました。これにより、よりきめ細やかな周術期（手術の前・中・後の期間）のケアが可能に。



周術期支援センターのご案内



<http://www.tobu.saiseikai.or.jp/surgical-support/>

面会方法変更のお知らせ

2月1日より面会受付の場所が、1階「保安室」または「総合案内（平日8:00～17:00）」になりました。面会制限のごさいますEICU、EHCU、ICU、6階西病棟、6階東病棟、5階西病棟、サルビアはこれまで通り直接各病棟へお越しください。



「総合案内」正面玄関目の前



「保安室」救命救急センター出入口すぐ

理念

「私たちは、医療を通じて生命を守ります」安心して受けられる医療 患者さんに優しい医療 常に一歩先の医療 地域社会に貢献する医療

基本方針

1. 医療の質の向上
2. 患者さんご家族の満足度の向上
3. 患者さんが参加する医療の展開
4. 高度な急性期医療および専門医療の提供
5. 地域から選ばれる病院作り
6. 働きがいのある病院作り
7. 安定した経営の確保

